

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

平成 31 年 3 月 25 日	
所属部局・職	野生動物研究センター・博士課程学生
氏名	齋藤 美保

<b>1. 派遣国・場所</b> (〇〇国、〇〇地域)
笹ヶ峰 (新潟県)
<b>2. 研究課題名</b> (〇〇の調査、および〇〇での実験)
笹ヶ峰実習・積雪期
<b>3. 派遣期間</b> (本邦出発から帰国まで)
平成 31 年 3 月 16 日 ~ 平成 31 年 3 月 20 日 (5 日間)
<b>4. 主な受入機関及び受入研究者</b> (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)
杉山先生、松沢先生、幸島先生、福島先生
<b>5. 所期の目的の遂行状況及び成果</b> (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)
写真 (必ず 1 枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの) の説明は、個々の写真の直下に入れること。 別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。
<p>私にとって、笹ヶ峰実習積雪期の参加は今回で三回目であった。三回目の参加といっても、過去二回参加した時とは異なる笹ヶ峰の様子を見ることができ、非常に充実した実習となった。</p> <p>前回とは異なる笹ヶ峰の様子として例えば、雪の状態が挙げられる。去年に引き続き今年も三田原登山に参加した。去年は頂上に行くにつれてガリガリとした氷状の斜面で、一步を踏み出すのに非常に苦労した。しかし、今回は前日に降雪したこともあってか、頂上までふかふかの雪の上を進むことができ、踏み出したスキーが滑るようなことはなかった。そのため、個人的には非常に楽に登ることができた。また、積雪量は年によって大きく違うことを改めて実感した。今年は笹ヶ峰を訪れる時期が例年より少し早かったためか、雪が多く 3 回目にして初めてイグルーを作成することができた。</p> <p>毎年、夏・秋・冬と実習生が笹ヶ峰を訪れているので、定点での写真撮影を行って環境の経年変化を記録していくと、環境の変化がよりわかりやすく面白そうだ、と感じた。</p> <p>さらに、過去には野生動物の足跡などは見つけたものの、一度も野生動物の姿をとらえることはなかった。しかし今回は、最終日に黒沢へ行く途中でニホンザルの真新しい糞と足跡を発見した。その後、ヒュッテに向かう帰り道にニホンザル集団を発見することができた。また、ニホンザルを発見する直前には、隊の先頭を進んでいた杉山先生のほんの数メートル先にあった木の根元から、野ウサギが飛び出して走り去っていった。てっきり野ウサギが休む場所は大きな木の根元かと思っていたが、実際彼が利用していたのはそのようにしっかりした木ではなく、人間が力を加えればすぐたわんでしまうような細い木の根元であった。また、冬毛のせいかな身体がかなり大きく見えた。そのため、数十メートル先を速いスピードで逃げ去る姿をしっかりとらえることが出来た。</p> <p>以上のように本実習に複数回参加することで、今回初めてわかったことが数多くあった。そのため、複数回実習に参加することは、初めてその実習に参加する履修生のサポートを行うためだけでなく、自身の知見を深めるためにも重要であると改めて感じる事ができた。</p>

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)



写真1. 今年も晴天に恵まれて三田原原登頂を果たすことができた。



写真2. 雪面にくっきりと残っていた、ニホンザルの足跡。

6. その他 (特記事項など)

本実習はPWSリーディングプログラムの支援を受けて行いました。実習期間中、丁寧にご指導くださった杉山先生、松沢先生、幸島先生、福島先生、どうもありがとうございました。